

【「日本の点字 第29号」より。この変更部分については、「点字数学記号解説暫定改訂版」の第2刷（2005年1月4日発行）から反映されています。】

数式等とともに用いられる句読点の用法の 一部変更等について

点字科学記号専門委員会

数式等とともに用いられる句読点の用法について、2002年12月23日の点字科学記号専門委員会で審議され、2003年5月31日の日本点字委員会総会で確認決定されたので、『点字数学記号解説暫定改訂版』の「4. 1 数式指示符号」の「なお」以下の文章（墨字版 p21、点字版 p64）を次のように変更する。

なお、数式の終わりの部分に一般日本語表記の句読点が接するときも、句読点を省略しないことを原則とする。ただし、誤読のおそれがあるなどの場合には句読点を省略して一般日本語表記の省略時の規則に従うが、上記(2)と(3)の2マスあけの規則を優先する。

<解説>

今回の変更は、数式中のコンマやピリオドの用法についてではなく、いわゆる文章記号としての句読点の扱いについての一部変更である。

2000年9月に発行した『点字数学記号暫定改訂版』では、数式の前は1マスあけとしているが、数式の後については、「数式内に関係記号（＝，＞，＜など）が含まれていない場合」には、数式の終わりを1マスあけ、「数式内に関係記号が含まれている場合」と「数式内に必要な1マスあけが含まれている場合」には数式の終わりを2マスあけとしている。そして、「数式の終わりに書かれている句読点は省略し、一般日本語表記の省略時の規則に従う」とされていた。しかし、文意を明確にするためには、句点の省略はできるだけの方がよく、読点・中点についても、意味の理解を損なわないためには、誤読のおそれがなければ省略しない方がよい場合が多い。特に、試験問題等の文章題等においては、省略すると意味の理解を妨げて重大な誤読に

つながる可能性もある。そこで、数式の後でも句読点を省略しない方を原則とした。
ただし、数式におけるコンマの扱いと混同しないように留意されたい。

以下に、数式のための句読点を書く場合と省略する場合、及び、数式上のコンマを省略する場合と省略しない場合について、化学式も含めて例示したので、参考にしてください。

＊ 句点を省略する例

化学式のような、下がり数字と誤読される可能性のある句点（句点としてのピリオドを含む）は省略して、2マスあけに置き換える。

[例]

□ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □
≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ □ ≡ ≡ ≡ □
≡ ≡ ≡

（主な成分は CH_4 。不完全燃焼で発生したのは NO 。また、……）

＊ 読点（読点としてのコンマを含む）または中点をそのまま書く例

次のような「,」は、誤読されない文章上の読点であり、省略せずにそのまま書く。

[例]

□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡
（速度を v_n , 加速度を a_n とする。）
□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □
≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □
≡ ≡ ≡

（岩石A, B, C は、それぞれ石灰岩, カコウ岩, ゲンブ岩である。）

＊ 読点（読点としてのコンマを含む）または中点を省略する例

次の「,」は、右下の添え字と紛らわしい場合や、言葉の部分省略の短い並列であるので省略して、1マスあけまたは2マスあけに置き換える。

[例]

□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □
≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡

(物体の質量を m_1 , 速度を v_1 とする。)

(主な成分は、NO、CH₄ である。)

— ● — ● ● ● — ● — —
● ● ● ● — ● ● ●
● ● ● — ● ● ● — — ●

(集合 A, B の交わりを求めよ。)

(自然数 m, n の最大公約数を g とする。)

* 数式のコンマを省略する例

数列の項目や並列した数式の間にある「,」は省略して、1マスあけまたは2マスあけに置き換える。

〔例〕

$$(\chi = 1, 2, 3, \dots)$$

(連立方程式の解は, $x = 1$, $y = 2$ となる。)

* 数式のコンマを省略しない例

座標や集合の各要素を区切るコンマ「,」は数式上必要なコンマであるので、省略しない。

[例]


(座標 (1, 2))

(集合 $\{1, 2, 3\}$)

* 数式の後の読点と対等な他の数式の後の読点も省略

数式の後的一般日本語の読点（読点としてのコンマを含む）または中点を省略する必要があるとき、その部分と対等な、他の数式の後読点も省略することがある。

〔例〕

単位カッコについての補足

なお、「日本語文中に単位カッコを書く場合は、前後の仮名との間をマスあけする。」となっているのは、「何m 数千m」など一般表記的な書き方にまで単位カッコを用いることは想定しておらず、助詞・助動詞等との間についてである。これらの表記にも単位カッコを用いる必要のある場合は、「 $\therefore \therefore \therefore \therefore$ 」などと同様、1語であれば続けて書いてよい。